

No.21

2004. 12. 1

地球の木

♥ 地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人
地球の木 理事会
■発行責任 丸谷士都子
■編集 広報部
■事務局 〒231-0032
横浜市中区不老町1-3-3
フェニックス閣内2F
TEL 045-228-1575
FAX 045-228-1578
E-Mail:chikyunoki@e-tree.jp
<http://homepage1.nifty.com/EarthTree>

CONTENTS

- 共に生きる社会をめざして
- あなたと県とNGOが力を合わせれば…
- サンマ家族に平和を求めて！
- 支援地から
- シンプルライフキャンペーン
- 心を動かす映像の力
- ブランチから
- 活動日誌
- INFORMATION

♣共に生きる社会をめざして♣

NGOかながわ国際協力会議委員 地球の木副理事長 乳井 京子

♣私たちがめざすもの

地球の木の活動の2本の柱、それは、海外支援と開発教育（地球市民教育）の普及です。私たちは1991年の設立以来、海外支援を通して多くのことを学んできました。私たちの暮らしが、今、世界で起こっている環境破壊、貧困、人権侵害、紛争などと密接に関係していること。これらの問題を解決するには、私たちの暮らし方から変えていかなければならぬことなどです。このことを伝えるために現地報告会や学習会を開き、オリジナル開発教育教材「Newマジカルバナナ」の製作・販売を行い、地域や学校で様々な出前講座を行ってきました。

地球の木は、神奈川県全域にまたがる11のブランチで顔の見える活動を展開する一方、行政との協働によって

国際協力/途上国支援や
地球市民活動が地域に根付き、「人が人らしくあたりまえに生きていくことができる」社会づくりのための提言活動に、1998年の第1回NGOかながわ国際協力会議から6年間、3期にわたって携わってきました。

♣届け、NGOの声

第1期、第2期NGOかながわ国際協力会議で委員を務めた横川芳江前理事長に続いて、2002年11月、神奈川県知事から委嘱を受け「第3期NGOかながわ国際協力会議」の委員を2年間務めました。構成員は、県内に拠点を置いて活動する国際協力NGO、神奈川県に暮らす外国籍県民の支援に携わるNGOで活動している8名。様々な思いを抱いて応募したNGOの代表たちが、意見を戦わせました。テーマを絞り、調査・研究・協議し、提言をまとめて、10月29日、外国籍県民かながわ会議のメンバーと共に、

松沢神奈川県知事にじかに手渡してきました。

今期の提言の特徴は、県の財政状況を充分に考慮した結果、「できるだけ予算を使わない政策」「実現可能な政策」であることです。そのため、県民、企業、国際機関、団体の参加・協力を得て、人材、知恵、技術、資金、情報など、神奈川の多様な資源を活用することが前提となっています。地域のリソースを活用した地域主体の国際協力と、人種差別の解消、NGOの基盤強化を訴えました。

県とNGOとの協働はまだ始まったばかりで、これまでの政策提言を反映して実現にこぎつけたものは外国籍県

民の「住」を支援する
「住まいのサポートセ
ンター」のみですが、
NGOの経験や知識、
情報、行動力、国内外
でのネットワークを生
かした国際政策と、神
奈川県がもっている公
共性と広報力、それに、
県民パワーを結集す
れば、「途上国」の人々
が抱える様々な問題を

解決する大きな力となるでしょう。

地球の木は「地球上のすべての人たちと共に生きる」とうたっていますが、日本にも周辺に追いやられ、辛酸をなめている人々がいることも忘れてはいけません。「誰か」を排除し、それを放置するような社会は、私たちにとっても住みやすい社会とはいえません。それは、私たちもいつ、その標的になるかもしれないからです。提言が、私たちの活動の理念を広め、共に生きる社会づくりへの参加を促す起爆剤となることを願います。

NGOかながわ国際協力会議（第3期）提言は2ページに記載しました。ご意見をお寄せください。



NGO会議、外国籍県民会議のメンバーと共に（中央が松沢県知事）

あなたと県とNGOが力を合わせれば…

途上国支援や差別のない社会づくりに皆さんの知恵や力が求められています。

空き室や空き店舗などをNGOの活動拠点として提供するなど、

あなたとNGO、県が少しずつ力を出し合えば、社会に大きな変革をもたらすことができます。
NGOかながわ国際協力会議からの提言を参考にして、あなたにできることを考えてみましょう。

NGOかながわ国際協力会議（第3期）提言

共生を実感できる神奈川と平和な国際社会の構築をめざす ～ NGOと県との協働のもとに ～

◆ 地域主体の国際協力/途上国支援

① NGO、県内企業、国際機関、公的研究機関などの協働、連携促進について

提言1

途上国が必要とする技術、特に環境保全、地域振興、生活改善などに関する技術・知識を有する県内企業、研究機関、個人のダイレクトリーを作成し、NGO、国内に事務所を置く国際機関、自治体などが実施している技術協力プロジェクトへの支援につなげること。

② 研修員・留学生受入れ事業の継続と充実・強化について

提言2

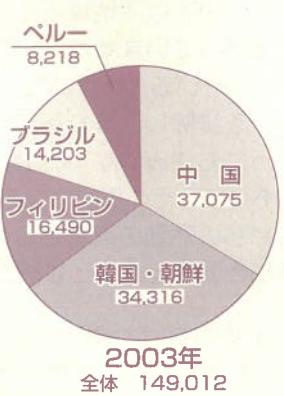
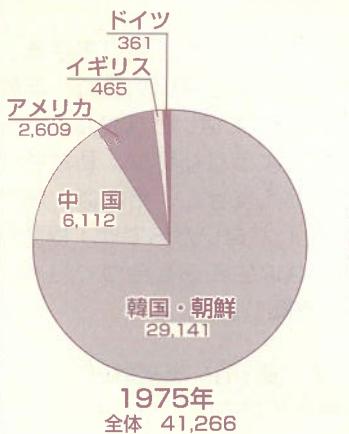
途上国の自立の主体となる人材を育成するため、研修員・留学生の受入れ事業を充実・強化すること。あわせて、県民の多文化理解を深め、多文化共生社会の実現に資すること。

③ 開発教育（地球市民教育）の推進について

提言3

地球規模の諸課題を自らの問題として認識し、身近な生活の中からそれらの解決に向けて行動する地球市民を育て、多文化共生社会を実現するために、県がそのリソース（信頼性・広報力・施設・資金力）を活用してイニシアチブをとり、開発教育（地球市民教育）を推進すること。

神奈川県外国人登録者数の上位5カ国（人）



◆ 差別のない社会の実現をめざして

④ 外国籍県民に対する日本語教育について

提言4

日本語の読み・書きを含めた総合的・体系的な日本語教育の機会を保障すること。

⑤ 外国籍県民の参政権について

提言5

外国籍県民への地方参政権の付与に向けた検討が、国で早期に進められるように議論の場を多く設定すること。

⑥ 人種平等委員会（仮称）の設置について

提言6

多民族・多文化共生社会の実現をめざし、最も大きな弊害となっている外国人に対する差別・排他性をなくしていくために、「人種平等委員会」（仮称）を設置すること。

◆ NGO活動の基礎整備の強化

⑦ NGOの活動拠点について

提言7

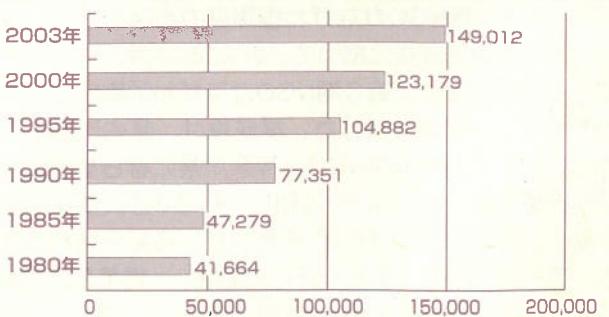
より多くのNGOが、県民の身近なところで継続的に活動ができるように、既存施設の機能を改善するとともに、増設を県が側面支援すること。

⑧ 県民・県内企業・関係団体とNGOを結びつけるシステムについて

提言8

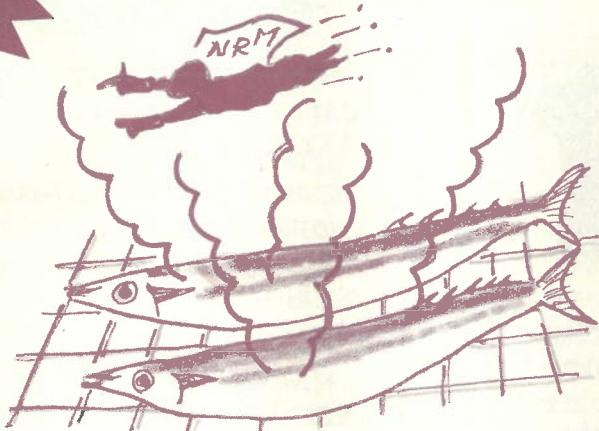
国際貢献に関心がある県民や県内企業・関係団体が、県内で活動する個々のNGOに対して、資金支援や活動への参加ができるように、県はその公共性と広報力などを生かして、両者を結びつけるシステムをNGOとともに創出すること。

神奈川県外国人登録者数の推移（人）



ニュー
リッチマン

サンマ家族に平和を求めて！



質問者(Q)：米林 大作
ニューリッチマン(NRM)：？

Q ごぶさたしています。久しぶりなので自己紹介お願ひします。

NRM

今年はドングリの当たり年、いろんなドングリを拾った。それで口コロ地方出身のドングリソコをモデルに「ドングリンコ・デ・口コロ」を作ってしまった。それと建売り住宅の現場から木屑を拾ってきて「空を見上げる犬」も作った。地べたをいつも見ている犬がふと空を見上げてしまう。これはもうたいへんなことなんだ。

Q

なんだかよくわかりませんが、それが自己紹介ですか。

NRM

それじゃあ、あんたやってみてよ。

Q

私はNPOの理事です。

NRM

なんだよそれ。商品のラベルじゃあるまいし。読者は「自立」とか「持続可能な発展」とか「平和」とかいう言葉に飢えています。何かそういうことを話してもらえませんか。

NRM

人間は2本の足で立つようになってから腰痛も背負い込むことになってしまった。

Q

ちょっとポイントがずれているんですけど。

NRM

あんたサンマ食べる？

Q

好きなんです。ダイコンをあろしたりして。

NRM

たとえば一尾85円のサンマを買ってきて、家族でチャブダイを囲んで夕食を食べるとするだろう。

Q

なんで85円なんですか。

NRM

細かいこと言うなよ。特売なんだから。子どもが「お父さんのサンマぼくのより大きい」って言う。するとお母さんが「お父さんは毎日一生懸命働いているんだからいいのよ」って言うだろう。こういうのあんたどう感じる？

Q

子どもはこれから大きくなるんだから大きなサンマでもいいと思います。

NRM

そういうことじゃないだろ。なんかしみじみと「幸せだなあ」と感じないのかよ。こういうのが続けられるのが「平和」じゃないの？

Q 話が長い割には説得力ないように思うんですけど。そんなケース、日本でニホンカワウソを見つけるようなもんでしょう。

NRM 質問者は受けをねらうなよ。「国際主義」「聖戦」「東洋平和」「國家の安全」「国益の守護」、これはどう思う？

Q 最近の報道でも似たような言葉を目や耳にします。

NRM これ日清戦争からアジア太平洋戦争にかけて日本で使われた言葉だけど。これが軍備増強につながって、備えすぎて憂いありになっちゃう。でも陸海軍の石油ストックは日米開戦前で840万キロリットル。2年戦える量しかなかった。今の日本の消費量なら12日位でなくなる。ちっとも持続可能じゃない。

Q 戦争が持続可能じゃ困ります。

NRM 「朝鮮の独立」のためとか、「暴支傭懲」というのもあった。暴れる中国人を懲らしめるってことだった。今アジアの人聞いても、十中八九暴れていたのは日本人だと言うんじゃない。犠牲者もたくさん出して。

Q でも徴兵された日本人たちは暴れに行くとは思っていなかつたでしょう？

NRM だから、心地よい言葉はだれでも使うから気をつけろということだよ。国は「国益」で動く。これもだれの利益なんだかよくわからない。確實なのは庶民が一番犠牲になるということ。

Q どうしたらいいでしょう？

NRM そんなの私にもよくわからないけど、サンマ家族は相手の国のサンマ家族のことをしっかり考えることだろ。

Q イラクの人たちサンマ食べるでしょうか？

NRM サンマのカバブがあつたっていいじゃないか。

ニューリッチマン「イマジン」を口ずさみながら去る。

支援地から

フィリピン

農地改革はどうなる？

10月29・30日のJCNC全国交流会で、ネグロスから来日したツブラン農場の責任者ベン神父と農業指導員のデニスさんから、エスペランサ農園は安全に耕されているという報告を聞きました。報告の中で、去年日本に来て話をしてくださったリトさんは川の上手に、ピーナツを植え、約250kgの収穫があったそうです。かなり急な斜面にきれいに植えてあるピーナツの写真を見て、がんばっているリトさんの姿が伝わってきてうれしくなりました。

しかし、去年の春エスペランサ農園で地主の私兵に殺されたジョニーさんのように、農地改革を阻もうとする地主によって、農民に犠牲者がいる事件がいまだに起こっているそうです。

農地改革は1988年アキノ政権時に、全ての土地なし農民と農業労働者に10年の期限付きで土地を与えようという法律が成立しましたが、農地解放の進展が遅いため、2008年まで延長することとなりました。ネグロスにはまだ4割の土地が農民に開放されないまま残っています。その中でも広大な土地を持つ元アキノ大統領の従兄弟であり、マルコス政権の中核にいたエドワード・コハンコなどの地主たちはまたあくどいことを考えています。

それは、コハンコの11の農園で実施している合弁企業（組合方式）と呼ばれているもので、実際の農地の所有権が農民の手にわたらない農地解放です。この合弁企業とは農民が組織した協同組合と地主が立ち上げた企業で作られ、そのうち地主が70%の株を持ち経営は地主がコントロールするので、農地改革は名目だけで土地を手に入れたにもかかわらず、以前と変わらぬ農園労働者の生活を強いられています。生活状況は貧しい今まで、そのうち借金が増え土地の権利を手放してしまう、地主が手放したように見えた土地は結果的には大地主のものになっていく、このやり方をフィリピン政府も認めているのです。

これらの問題に5月に誕生した政府がどのように対処するか注目し、エスペランサのジョニーさんのような事件があきないように、農地解放が完全に行われるよう応援していきたいと思います。

（フィリピンチーム 広瀬 康代）

ラオス

なぜわれわれは、ダムに沈む井戸を支援するのか

先日、ダム建設によって水没する予定のナカイヌア村に対して、JVCラオスは浅井戸の修復を支援することを決定しました。

この村の村人が掘った井戸はいくつかあります。これらの井戸は、砂地に掘ったために、すでに砂に埋まっていたり、あるいは、水がかなり濁っているため、一度すべて掘りかえして清掃する必要のあるものがほとんどでした。

村長の話によると、このような水状況を改善するために、過去に、多くの団体に支援を要請したようです。ところが、「この村は移転するんだから、井戸の修繕をしてしまうがいい。移転したら支援をしてあげよう」「ダムのために移転する村に関する責任は、ダムの建設会社が扛んでいるので、われわれは関係ない」といった回答ばかりだったそうです。



せき止められる予定のナムトウン川で水汲みをする少女

90年代前半に、ダムを建設する話が最初に持ち上がって以来、この村は、ずっと、いつどのように移転するのかわからない状況におかれきました。将来の見通しが立たずるために、田畠の拡張や井戸の修復などの生活改善もない状況です。さらに、村長の説明のように、教育や保健医療など、解決しなければならない問題は山積みであるにもかかわらず、移住してしまないと、外部からの支援を受けることができません。このような経緯から、村人はダムの建設に賛成し、早く建設してほしいと主張せざるを得ない状況になっています。

「ダム」に賛意を示さなければ将来はない、そんな状況に風穴をあけるべく、われわれは支援を決定しました。井戸の支援を通じて、ダムが建設されようがされまいが支援は可能なんだ、というメッセージを村に送り、ダムに依存することでしか自分たちの生活が改善できないと思っている村人に、もう一度、自分たちの将来はどうあるべきなのか、村人自身で考えるきっかけになれば、と願っています。

（JVCラオス事務所 名村 隆行）

ネパール

15クラスで365人が学んでいます

* 地球の木の皆さま、ナマスカール！

ネパールでは、9月、10月は祭りの月で、祭りを祝うのに忙殺されています。しかし、祭りは社会に調和と信頼を生み出す絶好のチャンスでもありますので、私たちはこの機会を利用して活動を広げています。カイラリとイマドールのプロジェクトは円滑に進んでいます。幸い、これらの活動が暴動によって妨げられる事はありませんが、相変わらず、あちこちで武力衝突があり、被害を受けるのは、いつも一般の市民なのです。

現在、極西部カイラリ郡の13の村で15クラスの識字教室が順調に実施されており、286人の女性と79人の男性、合計365人が学んでいます。デブラニの村でも識字教室が行われています。コミュニティーセンターはほぼ完成し、識字教室や会合、ヘルス・キャンペーンなど様々な地域活動に使われています。女性起業家への資金の貸付には、一定の基準を設けました。家族のサポートがあること、返済可能であること、マーケット、ネットワーク、バックグラウンドがあることなどです。

イマドールでは、協同組合トレーニング、NGOリーダーへのトレーニングを終了し、各々20名、21名が参加しました。ユースクラブの学生たちは、環境、地域づくり、機関紙の編集、教育活動、ネットワークづくりなど各地で活発に活動し、人材育成センターで行われる各種のトレーニングや周辺地域で行われる数々のフォーラムに参加することによって力をつけています。

12月にスタディツアーのメンバーがいらっしゃるのを楽しみにしています。ネパールに関心を持ってくださる方たちの来訪はいつも私たちを力づけてくれます。

SOARS ニルマラ K.C. より

* 目上の人に對して言う挨拶で「こんにちは」

●女性のための教育支援

カンボジア

教育支援の落とし穴

長年の間、発展途上国といわれている国々に、たくさんの資金供与が行われています。特に近年、学校建設や奨学金制度など教育支援の必要性が叫ばれています。私たちも、チャイルドケアセンターを設立し、支援金には教育資金も入っています。しかしここで忘れてはいけないことがあります。どこかの国のこぎれいな格好の人たちがやってきて立派な学校が建設され、校庭には遊具が取り付けられ、多くの子どもたちが通うようになると、村では次に何が起こるのでしょうか。それは、「中高等学校を作ってくれないか、図書室も用意してくれないか、私たちには資金がないのです」という村長からの依頼です。

また、教育を受けた子どもたちは都会へと出て行きます。家族や親戚に仕送りは来るかもしれませんのが有為な人材が農村を離れていく契機ともなってしまいます。村にとって本当に必要不可欠なものであれば、人々はなんとしてでも自分たちで作り出そうとするでしょう。全てを供与することは百害あって一利なしです。いま、多くの途上国では、農村が荒廃し人々は日銭を稼げる都会へと流出しています。

外部のものが少額でも資金提供を行うときにはその地域の人々の主体性がとても大切です。子どもたちにも同様なことがいえると思っています。「るしな」と私たちには少数のエリートを作るのではなく、常に地域に有用な人材を育成するように心がけながら、一人ひとりの子どもの希望と適性を見極め、ケアセンター生活から巣立つ子どもたちの次のステップのサポートも慎重に進めようと考え活動を続けています。（カンボジアチーム 小泉 恵子）

来年のカンボジア調査視察に一緒に参加する方を募集しています。事務局へお問い合わせ下さい。

●バッタンバン州のチャイルドケアセンター支援

シンプルライフ
キャンペーン

え!!シンプルなくらしが平和につながるの？

～湯たんぽのぬくもり～

私が気に入っているのは湯たんぽです。陶器のものですが、暖かさも結構長もち。本を読んだり書き物をする時の下にあきます。電気あんかとちがって身体の水分も奪わない。足もとあつたが、頭はすずしくすつきり。

（横浜市 野崎さん）



1月に初めてカトマンズを訪れた時は、底冷えのする寒さでした。ホームステイ先の奥さんのイラさんが、にこにこして渡してくれたのは、水筒みたいな形をした小さな湯たんぽ。暖房のない家のベッドの中で、宿主の暖かさが伝わってきました。

（丸谷士都子）

心を動かす映像の力

「アボン・小さい家」 横浜上映会を終えて

実行委員長 丸谷土都子

オープニングの素朴な民族音楽と共に、約80名の観客はフィリピンへ、そして山岳民族イゴロットの世界へと誘い込まれていきました。今泉光司監督がフィリピン人のスタッフと共に製作したこの映画は、ルソン島コルディエリエラ地方の町の厳しい現実と、山に暮らす人たちのほのぼのとした生活をていねいに描き出しています。フィリピン=大都市のスラムで生活する貧しい人々…そんなイメージが固定してしまっている私たちには新鮮な映像が目の前に繰り広げられました。

今泉監督のねらいはまさしくそこあります。映画にイゴロットの人たちが登場する時はいつも、裸にふんどしをしている原住民としてだそうです。ハリウッド映画が巷にあふれ、アメリカ文化が基準となってしまっている旧植民地の悲しい現状もあります。イゴロットの人たちが自分たちの文化に誇りを持ち、出稼ぎに行かなくとも自然と共に楽しい生活ができるように、という思いがこの映画には込められているのです。

メディアがアメリカ文化追従の風潮を作ってしまっているなら、メディアで対抗しようではないか、と監督は2003年2月のマニラ映画祭をかわわりに、バギオの高校などで「アボン・小さい家」の巡回上映を実行しました。フィリピンでの観客動員数は40,256人となりました。映画を観た若い人たちに変化が現れています。

監督のトークも交えて…

自分たちの文化に誇りを持つようになつたり、映画にも興味を持ち始めたり。ルソン島での上映会は今後も続きます。

戸塚の上映会に参加した人たちにも大きな感動がもたらされました。「イゴロットに“ありがとう”という言葉はなく、代わりに“恩を借ります”を使い、いずれ恩を返すという文化…この映画は私たちにこれからをどう生きぬいていくかを教えてくれています」「自然に感謝することを一番強く私の胸にしまい込みたいと思います」「フィリピン人は甘えと依存心の強い国民と思っていた認識を少しおためたい」。

映像はよくも悪くも観る人に大きなインパクトを与えます。

テレビで一方的に伝えられる偏った情報によって、多くの人たちが強く影響されてしまう現在の状況は、とても危ないと感じます。受け身でなく、私たちが映像をうまく使っていくことで人の心を動かし、世の中に変化を起こすこともできることを実感しました。

山岳民族の人たちの意識に変化をもたらしたいという監督の思いはさらに続けます。電気もガスもない山で楽しく生きるための生活の知恵を集め、「母ちゃんの知恵袋」という新聞を現地で発行しようという計画です。地球の木のシンプルライフキャンペーンとも共通するテーマなので、今後ともつながっていきたいと思います。

実行委員会の提案により、休憩時間に新潟中越地震募金とメッセージを集めました。27,170円と励ましの言葉が、横浜YMCAを通じて十日町の被災者に送られました。

ご協力ありがとうございました。



食事の前の感謝のお祈り



成功させよう「地球のステージ」 大和から平和の風を

ライブ音楽に映像と語りを組み合わせた新しいタイプのコンサート「地球のステージ」。山形発のその公演は1996年のスタート以来、観た人の感動が人々へと日本中に広がっています。そして今回地球の木でも、各ブランチが協力し合い開催することになりました。

出演するのは山形在住の精神科医・桑山紀彦氏。海外での医療活動にも多くの時間を割く桑山さんが、世界各地の紛争、貧困地域を巡りながら撮りためた写真を大画面に映し出し、自作の歌と楽器、平易な語りで独特のステージを構成していきます。

「どこの国に住んでいても人が人として当たり前に暮らしていく世界を」と願う私たち。9・11をきっかけに多くの人が世界のしくみについて真剣に考え始めている今、桑山さんの声高でないメッセージが静かに心に響きます。

日 時 2005年2月12日(土) 1:30開演
 と こ ろ 大和市生涯学習センターホール
 主 催 地球の木「地球のステージ」実行委員会
 * 詳細はチラシをごらん下さい
 (湘南ブランチ 国分 純子)



生活クラブでマジカルバナナ

10月15日、生活クラブの「茅ヶ崎東海岸しあさいクラブ」の招きを受けてマジカルバナナのワークショップを行いました。参加者は13人。最初は、市販のバナナとフェアトレードのバランゴンの二種類バナナのにおいをかぎ、バランゴンのにおいの良さを実感。そしてクイズ、カードゲームとスムーズに進み、ロールプレイで二つのバナナの生産に係わっている人々の生活をちょっぴり体験しました。

最後に食糧配分で世界の20%の人々が80%の食糧を、80%の人々が20%の食糧を食べているという現実、さらに、ハンガーマップで世界の飢餓の状態を目の当たりにすると、改めて知る驚きと「やはり」というため息のようなものが参加者の間に広がりました。そして一同、この情報をもっとたくさんの人に伝えていかなければとの思いを強くしました。 (西湘ブランチ 坂下まさみ)

活動日誌 (9月~11月抜粋)

- 9月 2日 JVCラオス名村さん 帰国報告会
- 15日 マジカルシュガー学習会 第1回
- 18日 「NEWマジカルバナナ」ワークショップ
(生活クラブ アソシエーション・サロン)
- 18日 NGOかながわ国際協力会議
- 18日 日本ネグロス・キャンペーン委員会 (JCNC) 運営委員会
- 22日 ネパール調査報告会
- 24日 アリスセンター総会出席
- 26日 今度はあなたがファシリテーター第2弾
「世界がもし100人の村だったら」ワークショップ
- 26日 つるみオープンカフェ (とうぶ)
- 10月 2日 共生アジアシンポジウム 法輪和尚と平和を語る
- 2~3日 國際協力フェスティバル2004
- 4日 マジカルシュガー学習会 第2回
- 10日 開成町スポーツフェスティバル(県央・西湘)
- 12日 「ネパールの識字教室」出前講座 (鎌倉高校)
- 13日 南北KOREAと日本のともだち展報告会
- 15日 「マジカルバナナ」出前講座 (湘南生活クラブ)
- 15日 「ネパール家族ゲーム」出前講座 (港北高校)
- 16~17日 横浜国際協力まつり2004
- 17日 「遊人びあ」 (西湘)
- 23日 こうなん子どもゆめワールド (なんぶ)
- 24日 由比ガ浜フェスタ「世界がもし100人の村だったら」
ワークショップ

- 24日 出前講座 ファンキーキッズ
- 24日 フォーラムまつり (なんぶ)
- 24日 市民フェスタ (川崎)
- 24日 さがみはら国際交流フェスティバル (さがみ)
- 24日 バンバザー (さがみ)
- 29日 県知事に提言書を提出 (NGOかながわ国際協力会議)
- 30日 西湘連続学習会 第1回「フィリピン」
- 30日~31日 日本ネグロス・キャンペーン委員会 (JCNC)
ネットワーク交流会
- 11月 1日 マジカルシュガー学習会 第3回
- 3日 地球の木学習会「少女たちが村を変えた」
(シャプラニール全国キャラバン2004)
- 4日 教員研修「貿易ゲーム」 (市場中学校)
- 6日 「アボン・小さい家」上映会 IN 横浜
- 14日 鎌倉国際交流フェスティバル (三浦)
- 20日 磯子区国際交流フェスティバル (なんぶ)
- 21日 出前講座 (静岡県高等学校文化連盟文化祭)
- 23日 アソシエーション・サロン
- 24日 「マジカルバナナ」出前講座 (川崎高校)
- 27日 フィールドワーク
「鎌倉の広町緑地を歩いてみよう!」 (ラオスチーム)
- 27日 アソシエーション・フォーラム
- 30日 「アボン・小さい家」上映会 IN 川崎
- 30日 西湘連続学習会 第2回

INFORMATION

あなたもカレンダーで国際協力を 今年のテーマは「祈り」

あなたは今、誰のために何を祈りますか？
そんな声が聞こえてくるようなカレンダーです。
現代文明を拒むかのような広漠とした大地。
そこには人間を超える大いなるものが存在しているよう。
世界の人々は自然への畏れと感謝を通じ
真摯に神と向き合ってきました。
現代を生きるあなたがその姿を見て心に感じるものは？
ご自分のために、そして親しい方へのプレゼントにもぜひ！



販売価格 1,500円（税込）
使用時サイズ 56cm×41cm
印 刷 オールカラー

年末募金キャンペーンのお願い

今年も「募金キャンペーン」の季節がやってまいりました。皆様のご協力をお願いいたします。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

- ・デブラニ募金（ネパール）
- ・ネグロス募金（フィリピン）
- ・村びと支援募金（ラオス）
- ・カンボジア子ども募金（e-ボランティアネットのオンライン募金システムが利用できます。詳細は地球の木ホームページへ）

マジカルシュガー

甘い砂糖から甘くない現実の世界を考える

自己開発の学習教材「マジカルシュガー」づくりにあなたも参加しませんか。

日 程 : 12月13日(月)・フィリピンの伝統的な砂糖づくり、砂糖農園労働者の生活

2月 7日(月)・ネグロス島の飢餓はなぜあきたのか
・日本植民地期の台湾での砂糖栽培

3月7日 (月)

時 間 : 13:30~15:30

場 所 : 地球の木事務所

楽しくセミナー 地球の木学習会

フィリピンのバナナを通して民衆交易について考えます。

日 時 : 1月15日(土) 13:30~15:30

場 所 : オルタ館 2F オルタリアン

(JR新横浜駅下車 徒歩7分)

参加費 : 500円

協 力 : 日本ネグロスキャンペーン委員会 (JCNC)

オルタ・トレード・ジャパン (ATJ)

ネパールスタディツアーレポート会

日 時 : 1月29日(土) 14:00~16:00

場 所 : 横浜市市民活動支援センター

(JR桜木町駅下車徒歩5分)

申込み : 地球の木事務所

ありがとうございました

募金者リスト	2004年3月～	募金総額	148,280円
海藤 和美	鈴木修子	大野優子	江口ナオミ
斎藤 敏	岩田まさ子	柏柳妙	米林大作
柴田 晶江	尾藤尚美	泉 寛子	澤節子
中井みどり	野澤美恵子	前田かな子	ファイバー
杉本恵美子	栗原照生	横川芳江	イクル泉谷
日浦 幸子	鈴木和枝	乳井京子	
寄付者リスト	2004年3月～	寄付総額	225,327円
大木秀一	内嶋	横川芳江	中村文
平楽中学校	三浦	乳井京子	春木由紀子
生徒有志	若林かをる	廣瀬康代	安田恵子
ファイバー	Tea&talk	田中八重子	横尾和江
サイクル泉谷	北部プランチ		

メルマガを発行しています

Asian Wind

地球の木のメルマガ「アジアンウインド」（月2回発行）でイベント、学習会など最新の情報を届けしています。購読希望の方は、「購読希望」と書いてメールをお送りください。

あて先はE-mail : chikyunoki@e-tree.jp です。



Newマジカルバナナ 販売中

新しくなった地球の木オリジナル教材。
クイズ、フォトランゲージ、ロールプレイ等で途上国の人々や私たちの暮らしを考えます。

(1セット 1,500円)

別売り 写真が豊富なCD-ROM 1,000円)

フィリピン・ネグロス島調査報告会

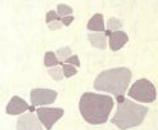
日 時 : 1月23日(日) 13:30~15:30

場 所 : 地球の木事務所

参加費 : 300円

申込み : 地球の木事務所

申込締切 : 2005年1月20日(木)



★ボランティア募集！発送作業、イベント手伝いなど

★地球の木のプロジェクトはあなたの会費で支えられています